



プロローグ

道端に、ドアだけポツンと立っていて

目的も無く開けてしまった。

ドアの先 広がる世界 進まなきゃ。
立ち止まっては ダメな、気がして。

振り向けば ドアは消え去り ひとりきり
後戻りできぬ 目の前の道。

どうしよう・・・
知らない場所に出ちゃったよ。

すると前から、見知らぬ人が・・・。

見も知らぬ 人に言われて 困ります。

にっこり笑って

「待っていました。

麗香さま、挙式の支度、急ぎましょう。」

人ちがいです。あたしは、ゆかり！

「ゆかり様？そんなはずはありません！」

・・・こっちの話は 聞いてないのね。

突然に お姫様抱っこ！？

「さあ、一緒に来てくれますか？」

いいから降ろせ！

いきなりの 暴挙に思わず 殴りとばし

一目散に その場を逃げ去る。

礼服の おじさんたちが 追ってくる!?
近くにどこか、隠れる場所は・・・?

物陰に 隠れたけれど 見つかった。
頭かくして尻隠さず。

「麗香さま、 見つけましたよ。 行きましょう。」

手を掴まれて ずる、ずる、ずる、と ……。

つかまって

さあ、着替えろ、と ドレスを出され、
測ってないのに なぜにピッタリ！？

メイクされ 髪もいじられ さあ完成。
鏡を見ると あら、綺麗かも♪

窓の外 ふと見下ろして 見えたのは、
逃げ去る女。あたしそっくり？

麗香かも・・・！

思い立ったら 即行動。窓を開けたら 飛び降りた！

4階だ！！

足から歩道に激突で

脳まで激震！ 絶対、死んだ・・・。

何ともない・・・???

着地、成功・・・。

スカートをまくって抱え、あいつを追った！

「麗香さーん！！麗香さんでしょーー！？

止まれ、こらああああーー！」

通りの人たち、じろじろ見ないで！

追いついて タックルかまして 捕まえる。
ドレス破れた・・・ まあ気にしない！

「はなしてよ！！私は絶対、逃げたいの！」
だから何なの！私も同じ！

とりあえず 言い争ってる 暇は無い。

二人一緒に 脱兎の如く・・・。

礼服の おじさん軍団、追ってくる！

麗香が川辺のボートを指差す。

「とりあえず、今はとにかく逃げるのよ！」
なんであんたに、指図されるの！

しゃくだけど、麗香につづいて舟へ跳び、
向こう岸へと必死で漕いだ。

・・・逃げ切った・・・・・・・・。

ボートの2人、ひと安心。

見合って、

ウフフフ・・・・・・・・

アハハハハ・・・・・・・・

・・・じゃねえ！

「どういう気？

あたしに結婚 押しつけて

自分は こっそり逃げよう、なんて？」

「そう言ったって、私はアイツ、大嫌い！」
無茶苦茶すぎる、このアホ女！！

「それなのに、どうして結婚することに？」
顔をしかめて、こちらを睨む。

「そんなこと、あんたに関係、ないじゃない」
関係ない、だ？関係、あるよ！

「ドレス着て、結婚しそうになったのよ！？
あたしの道が歪むところだった！」

「どこに行く道？」
と聞かれてギョツとした。
目的もなくドア開けたあたし。

「あたしより大きな夢を追ってるの？
そうじゃないなら、結婚、いかが？」

「好きでもない男と結婚したくない！」

これは、あなたとおんなじか・・・・・・・・。

「私もそう。好きじゃないから、逃げてるの」

・・・・・・・・少しは気持ち、わかる気がする。

「・・・・・・・・おかしいじゃん。男の方の片思い？

どうしてそれが挙式になるわけ？

・・・その男、例えば、地位にもの言わせ、

あんたをものにしがってる、とか？

部下として、あのオヤジたち抱えてて・・・・・・・・。」

「詮索しないで！失礼な人！」

「失礼」で・・・・・・・・。

言われたくないよ、あんたには。

いきさつを何も言わないからじゃん！

向こうには船に乗った礼服軍団。

私たちは知る由も無く・・・・・・・・。

きづかずに おじさんたちに 捕まった。

え？麗香さまが どうして二人???

どっちなの？ どちらがホントの麗香さま？

結局ゆかりがつれていかれる。

「どおしてよおー！」

指示した男に叫んだら、さびしげな目で麗香を見てた。

去りぎわに、あいつが見せたあの笑顔、

憎たらしいったら、ありゃしない！

豪邸の応接室に通された。

「式はいずれ」

と初老男性。

「もう、あたし麗香じゃないって知ってるね？」

「姫様は夢を追うのも良いかと。」

「そのかわり、あたしに結婚しろってか？」

「その前にあなた・・・・・・・・何者ですか？」

「結婚は、今さらなしにできないが、
もう暗くなる。家に送ります。
詳しくは、後日、お宅で改めて、
親も交えて交渉します。」

麗香さん、実家はわりと紳士的。
「とにかく、うちに帰れるんですね？」

そこからが、いよいよわけがわからない。

あたしの住所がこの世界に無い！

きちがい？と思われはじめちゃ、言えないよ。
ドアのはなしはとどめさしちゃう。

この家に囚われてるのもイヤだけど、
追い出さないで、と思ってるあたし。

「とりあえず、今夜はここに泊りなさい。」
家に帰れる日はいつなのか・・・・・・・・？

落ち着かず、いじったソファの継ぎ目から
「れいか」と書いてるカギを見つけた。

夕食は、メイドの千恵が持ってきた。
夜には、布団を敷きつつ、忠告。

「にせものと、1部の者しか知りません。
当分、姫のふりしてください。」

「姫」だって。
豪邸、執事、メイドまで・・・・。
いい暮らししてる人もいるなあ・・・・。

もう遅い。ひとまず今は横になる。
不安で寝付けず、そのうち、朝に・・・・。

目が覚めて、いつもの道を大学へ。

いつもの友と就活ばなし。

「進路ねえ……。給料高いところがいい。」

目標ないのが、なんか、やましい。

単位だけ目当ての講義に寝ちゃってた。

目覚めて朝の、リッチな客間……。？

そうだった。麗香の家に泊ってた。

日常は今や恋しい夢か。

家が消え、家族も無くし、ひとりきり。

どうなっちゃうの？涙がこぼれる……。

だまってりゃ、セレブの家族になれたかも。

でも、しあわせと思えてこない。

戸をあけた。

千恵が立っててにこやかに

「おはよいですね。」

見張ってやがった・・・。

「【麗香様】、やつれた顔はいけません！」

快眠できるわけねえだろが！

千恵の横 男の人が立っている。

口パクで聞いた

『その人、だあれ？』

ひそひそと

『麗香様の 婚約者（フィアンセ）です』

あれれ？意外と カッコいいかも!?

『どうしろ、と？』

千恵に耳打ち返したら、

『体調不良と言ってあります。』

品定め。合コン女王スイッチ、オン。

麗香が嫌う理由は見えない。

「克哉さま、すみませんが・・・」

に千恵を制し、

花かごをくれて立ち去るイケメン。

お帰りを見送ってから、
千恵の襟 むんずとつかんで部屋の奥へと。

「完べきじゃん！麗香は何が不満なの？」
千恵は苦笑で首ひねるばかり。

「ケンカより、朝食、早く済ませなさい。」

夕べの執事がお盆を置いた。

食べながら、千恵に麗香のことを聞く。
マネしようにも、わからないから、と。

気になるなあ。
先週まではラブラブで、
手のひら返して嫌がりだした・・・？

あっさりと部屋の位置までしゃべらせた。
カギがあること、千恵は知らない。

とりあえず、腹を満たして、それからだ。
腹が減っては、戦はできぬ。

食べながら、これからの事考える。
すべてのカギは、ワタシがにぎる。

巻き込んだお礼はさせてもらうわよ。
覚えてなさい、お嬢ちゃん・・・。

「ゆかり様、お気に召したと聞いてます。」

麗香の父に執事が報告。

「縁談も、麗香の夢も壊れない。

宿無し娘は、好都合だな・・・。」

「あの人は・・・」

ぼくにはわかる。麗香じゃない。

だけど素直な、すてきな人だ・・・。」

つぶやいた、克哉の想い露知らず・・・

ゆかりはひとり、策を練ってた。

「ああ・・・だけど・・・克哉の顔は好みだわ・・・。」

惜しい気持ちも、無いワケじゃない。

わからない、麗香の気持ち。

「・・・何故逃げた？」

まずはそこから、探らないとね。

トイレかな？千恵が見えないこのすきに、

ここを抜けだし麗香を気取る。

執事たちに いろいろ聞いて 探ってる

私は自称 おとしの達人。

どうしてよ？ 誰も知ってる 人いない。

その時、一人 知ってそうなやつ・・・！

あやしいわ・・・。

女同士の 心理戦。 絶対、絶対、 吐かせてやる！！

麗香さまが、何やら、かまをかけてくる？
筆頭執事がうわさに困惑。

(千恵の奴、不審人物を野放しに・・・？
見張りの役目を、何やってるんだ！)

中断だ！筆頭執事が駆けてきた。
ゆかりは麗香の部屋へ逃げ込む。

カギなしに入れぬ部屋に、ウラをかき、
入り込んだら、うあ、広い部屋！

ドア叩く音を無視して、見回した。
部屋の広さに、圧倒された。

すごすぎる・・・！！

だいたい予想してたけど・・・。
苦労しらずの、おじょうちゃん。

「うるさいな、ひとりにしてよ！逃げないわ」
ドアの向こうに、怒鳴ってやった。

麗香って、千恵が言うには地形学者。

本棚を見てなるほどと思う。

同じ頃、階層世界研究所。スタッフの中に麗香の姿が。

「実は、昨日、・・・」

時空の亀裂があったという。

目を輝かすスタッフと麗香。

「この位置は？ 星さんの家の近くだな。

何か、異変はなかったですか？」

尋ねられ、麗香は

「さあ・・・？」

と答えたが、

なぜか気になったそっくり女。

星家では、

ゆかりが麗香の広い部屋、心変わりのわけを探してた。

はた目には、麗香が部屋にいるだけだ。

執事もムリにドア開けられぬ。

出られない。窓にも見張り。

でも、中じゃ 思う存分捜索できた。

何よ、これ！

怨念こもった紙くずが！

号泣でにじむ赤いなぐり書き。

克哉って B型だった

嫌ってる 理由はまさか、

たったこれだけ??

「そういえば、なぜカギ持ってた、あの女？
いっしょの時に、もしや、盗んだ？」

がさいれも やり尽くしたし、成果なし。
紙くず見せに、1回、出よう……。

紙を手にも、ドアを開ければ、
仁王立ち、腕組み執事、への字のおくち。
うしろには、千恵の姿が控えてる。
「勝手なことは、なさらぬように」

「ごめんなさい。ちょっとひとりになりたくて……。」
しおらしいふり、して みたい する……。

「私達、そんな芝居に だまされない。」
執事と千恵が ムスツとにらむ。

改めて応接室で取り調べ。

星家は鬼ではない、とは言いが・・・。

「月末に、麗香さまとして嫁ぎなさい。

服役よりはいい条件だろ？」

「ちょお、待って！犯罪者とかじゃないですよ！」

「麗香さまからカギをスツたな？」

無理やりに 結婚だとか、スリだとか、

もめると ゆかりの孤立が際立つ。

ぶちキレて

「麗香が嫁、でいいじゃん！あたしが2人を仲直りさせる！」

「どろぼうめ。無理だというのに、たわごとを・・・。」

「だめなら麗香の代わり やるわよ！」

勢いで 言っちゃったけど

どうしよう・・・・・・・・・・。

全然策を 考えてない・・・・。

千恵を連れ、見張られ、麗香のふりをする。

この契約で 一応、自由。

逃げるなら、礼服軍団差し向ける。

忠告されてブルーなゆかり。

【ゆかり】という存在賭けたこの勝負、

絶対負けるわけにいかない・・・・。

「【麗香さま】、みんなが変に思います。」

麗香の部屋へ、と千恵が促す。

「大学は？麗香、出勤してるかも？」

「もう調べてます。知らないそうです。」

・・・がっかりだ。良いアイデアを出したのに・・・。

「連れ戻しても、どう諭すんです？」

「そういえば・・・」

テーブルで例の紙広げ、

「B型の良さ、挙げてみてくれる？」

■ ■ ■ ■ ■
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
■ ■ ■ ■ ■
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

「起きてるかぁ？」

千恵さん、何かしゃべってよ。」

思いつかずに時間だけ過ぎる。

「ひらめいた！

・・・克哉さまとのデートからB的な良さを探してみれば・・・。」

「千恵さんが？」

「あたしが行ってどうします？

【麗香さま】が、に決まってるでしょ？」

「ちょい待ちい！二人でデート？むりむりむりっ」

ゆかりが首を、ぶんぶん振った。

「上手くやる、自信も何も・・・ないないっ」

否定はするが、内心・・・ラッキー♪

ちらちらと、克哉の顔が目浮かび

—— デートだけなら、損はない、かな。

「克哉さま、・・・・・・・・OKですか？・・・じゃあ、後で。」

おい！ケータイで今、何してた！？

「たいへんだ！おめかししなきゃ！すぐ来るわ！」

てめえ、無理やり・・・・・・・・。もうやるしかない！

制服のメイド軍団かけつけて、
あれこれいじられ、レディーに変身。

「これでよし・・・馬子にも衣装」

！ なんだってえ？

千恵の言葉に、カチンと来たが

———素敵だわ・・・。

これがアタシ？と目を見張る。

鏡に映る、大人の女・・・。

「ボロだけは、出さないように、気をつけて・・・。」

千恵が釘刺す。

「わかってるって♪」

「昨日から、向こうは妙だ。どう聞こう・・・？」

アクセル踏みつつ克哉は悩んだ。

家ぐるみ、麗香のにせもの出すわけは？

その女（ひと）って、誰？

麗香はどうした？

聞き方もまともらぬまま、もう着いた。

克哉は、フェラーリ 門前に停めた。

豪邸を出てきたゆかり、息をのむ。

イケメン克哉とフェラーリがいる！

上品に 麗香のふりして歩み寄り、

微笑みかけるが、あたま、真っ白。

促され、外車の右の助手席へ。

借りてきた猫は、戸惑うばかり。

無理難題 挑む事態に 待っていた

セレブの迫力。ゆかり、どうする？

前編・おわり

あとがきにかえて

この短歌ドラマは、リレー小説として
WEB上で投稿を募って生まれたものです。

投稿してくださったみなさんです。(P. N)

君呼さん。

加奈さん。

ふくらすずめさん。

美優さん。

中 森 零さん。

あかいさん。

リザ・ワトソンさん。

小雪さん。

じゅりっぺさん。

T S U M I H A さん。

結城さん。

以上のみなさまに、原文を投稿いただきました。

主宰権限で、多々、修正を加えて

これまでに至っていることをご了承ください。

ご協力に厚くお礼申し上げます。

* このストーリーは、フィクションです。

ゆかりのGOAL へのリンクはこちら。

[*ゆかりのGOAL中編](#)

[*ゆかりのGOAL後編](#)

[*ゆかりのGOAL最終決戦](#)